

56号 令和6年 10月15日 発行

なゆたん通信

以前、なゆたん通信 44号で紹介させて頂いた「カビンくんとドンマちゃん」の著者でもある加藤路瑛（かとうじえい）さんのお話を少しさせていただきます。



加藤路瑛（かとうじえい）2006年生まれ。2018年に12歳で株式会社クリスタルロードを設立。2021年、15歳で代表権を取得し、代表取締役役に就任。2020年に「感覚過敏研究所」を立ち上げ、感覚過敏がある人たちが暮らしやすい社会をつくることを目指し、商品・サービスの開発・販売、および感覚過敏の研究・啓発に取り組む。現在は、感覚過敏の課題解決の1つとして、縫い目外側・タグなしをコンセプトにしたアパレルブランド「KANKAKU FACTORY」に力を注いでいる。

「できないより、できるほうがいい」僕自身が一番、ずっとそう思っていた

「できても、できなくてもいい」

そんな風に自分の定義をゆるめたら、世界が少し変わって見えた

誰一人として自分と完全に同じ感覚の人はいません。それほどに感覚というものは個性的なものです。感覚過敏や鈍麻など日常生活の中で不都合が多い特性があると、自分がダメな人間のように思えて落ち込む日もあると思います。それでも、どうか自分の感覚を愛してください。

目に見えず触れることもできない、私の感覚、あなたの感覚、みんなの感覚。どの感覚も個性的で多様で大切にしたい存在です。

